

### 11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置きましょう。

赤ちゃんは熱いものにも平気で手をのび触れてしまいます。お母さんが食事の準備中、ちょっと目を離れたすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや鍋を触ったり、お母さんが飲もうとしたコーヒをひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、赤ちゃんを抱きながら食べたり運んだりするのはやめましょう。



### 12. アイロンは使用後、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましませう。

使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましませう。



### 13. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用しませう。

冬は暖房器具によるやけどが多くあります。ストーブの近くに寝かせておいて、寝返りをしたときに手があたりたり、ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しませう。

ストーブの上にやかんは置かないようにしませう。

また、体温より少し高いくらい温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせませう。こたつや電気カーペットには長時間寝かせないようにしませう。



### 14. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしませう。

ドアのちょうつがい側に指をはさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり、切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には注意が必要です。

ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認しませう。

ドアのちょうつがい側には防止グッズなどでカバーをし、ドアを開けておくときは、風で急に閉まらないようにドアストッパーなどで固定しませう。



### 15. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをしませう。

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口。赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくなる場所です。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手をはさむ危険が防げます。

テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口には、ガードをしておきませう。



### 17. 包丁、はさみ、かみそり、などの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをする。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、赤ちゃんはこれから大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしてます。

刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきませう。



### 17. バケツや洗面器に水をためて床に置いたままにしないようにしませう。

赤ちゃんは10cm程の浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器に溜まっている浅い水に身を乗り出しのぞき込んで見ているうちに、顔がつかって溺れてしまったりするので、使い終わったら必ず水を捨てておきませう。水遊びをしているときは一人にしなことです。



### 18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきませう。

入浴中、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間、浴槽につかまり立ちをさせておいたら、よじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の赤ちゃんからは目を離さないようにしませう。入浴後は浴槽のお湯はぬいておきませう。



### 19. 一人で浴室に入れられないようにドアにカギなどをつけておきませう。

じっとしていることが少なく、一人でよちよち歩いていってしまう1歳ごろ。掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に入出入りできないようにしておきませう。



### 20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しませう。

赤ちゃんを抱いて車に乗るのは危険です。車が急に止まったり、衝突すると、腕から飛び出し、衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手力では支えきれません。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しませう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びませう。

